

◎偽盲ノ鑑定實例 (承前)

渡 孚 貞

第三章 眼科學的ニ得タル利益

一、先達諸家ガ偽盲看破法ハ一トシテ完全ナラズ

偽盲鑑破ノ方法ハ由來多ク單純ナル眼科學者ニ依ツテ報告セラル而モ實踐ノ跡少キガ爲言ヤ往々空漠ニ流レ偶々實例ニ接シテ之ヲ試ムルモ常ニ必ズシモ陽性ノ結果ヲ納ムル能ハズ乃チ特ニ此章ヲ設ケ大膽ニモ先達諸家ガ看破方法ノ可否ヲ論セント欲ス素ヨリ蛇足ノ贅辨ハ讀者諸兄ノ嫌厭措カサル所願クハ詳細ヲ他日ニ讓リ今ハ暫ク其一端ニ止メン尤モ片眼偽盲ニ就テノミ

一、余等ガ今回試用シテ陰性ノ成績ヲ得シモノ

(一) 大西克知氏法⁽⁴⁾ 色盲患者又ハ偽眼ノ多少視力障礙ヲ有スルモノニハ適用シ難シ

(二) リノ法 幾分ノ思考力ヲ有スレバ容易ニ檢者ヲ欺ク事ヲ得况ンヤ偽眼既ニ分量的

視力ノ減衰ヲ有スルモノニ於テオヤ

二、余等ガ試用シテ陽性ノ成績ヲ得シモノ

余等今回應用シタルノ法實ニ拾、中八法ノ陽性結果ヲ得タリ蓋シ異數ナリ僥倖ナリ、八法何レカ一トシテ完全無缺ト稱スベキ假ニ余ヲシテ偽者ヲラシメバ之レガ看破ヲ脱セン事必ズシ

モ至難ニアラズ

(一) フオン、グレーフエ氏法(ロ)

複像ヲ認ムルノ際常ニ一徹「否」ト明答スレバ足ル、殊ニ該法ニ依リテハ弱度ノ「プリスマ」ヲ使用シテ偏眼複視ヲ起スノ恐レアリ……假令真正ノ偏眼盲者ニモセヨ……………

(二) アルフレッド、グレーフエ氏法(ハ)

其實行ノ至難ナルト結果ノ不確然ナルト偽者ガ隠尾ノ容易ナルトハ他法中其比ヲ見ズ

(三) ウエルツ氏法(ロ)

既ニ余等ガフアルニアリテモ明瞭ヲ得ザリシ如ク縦マニ眼球ヲ轉動スルニ際シテハ檢者ガ腦底ハ到底紛亂ヲ免レズ同理ニ依リテ「ニスタグムス」ノ患者ニアリテ又ハ彼ノ斜視ヲ有スルモノニハ適用スベキノ法ニアラズ

(四) クーゲル氏法(ニ)

余等ハ該法ニヨリ確然タル陽性ノ成績ヲ得タレトモ常ニ必ズシモ此良効ヲ修メ難カラン殊ニ強度ノ遠視例之「カタラクト」摘出後等ニハ絶對的ニ之レヲ排撃セザルヲ得ズ

(五) (ホ) 法

故意ニ失明ヲ虚構セント欲スルノ邪者既ニ百方習練ノ後チニアラザレバ吾人ノ手ヲ勞スルニ至ラズ單一ナル之等方法ニヨリテ檢者ガ係蹄ニ縛セラル、ハ蓋シ稀ナラシ

●原著及實驗

(六) (へ) 法

學理的根據ナキノ一簡法豈百發百中ト謂フヲ得ベケンヤ

(七) (ト) 法

ウエルツ氏法ト同様何レノ場合ニモ應用ヲ得ズ

(八) (ヌ) 法

學理的何等ノ價值ヲ有セズ

以上ノ他ベルトホルド、ラブル、リユシクハルト、シユミツト、リムブレル、フレー、ワロモン、キ

ニエ、ラファ、ステルレン、等ノ諸氏或ハ三稜鏡ヲ用井或ハ實體鏡ヲ使用シ或ハ平面鏡ヲ用ユル等種々ナル方法ニヨリテ各自其獨特ノ法タルヲ公言セリ而モ詳細ニ之ヲ研究スレバ各法皆多少ノ缺點ヲ指摘スル事難カラズ必竟現時ニ於ケル僞盲鑑定法ハ一トシテ信ヲ措クニ足ラズ願クハ同窓諸兄吾人ト共ニ大ニ進ンデ之レが大發見ノ壯舉ヲ圖レ

余ヤ未ダ言ハント欲スル事多シ唯身邊紛務ニ繞マレ秃筆愈々澁キヲ加フ願クハ之レヲ他日ニ俟タ
ン平 (完結)